

- 1 報告地区 : 十勝地区  
2 事例報告学校名 : 広尾町立広尾小学校  
3 報告者 : 校長 高橋 敏宏  
4 キーワード : 学力向上のための教育環境づくり

## 1 はじめに

本校は、十勝の南に位置する広尾町にある開校137年目、今年度の児童数は244名、学級数は15(内特別支援学級5)の中規模校である。学校は、サンタランドキーステージ大丸山の麓にあり、教育環境にも恵まれている。町の産業は、漁業、農業、林業等で、特に、漁業では十勝管内を代表する「十勝港」がある。

広尾町では、平成29年度より「ほっかいどう学力向上推進事業の授業改善等支援事業」の指定を受け、町内小学校2校、中学校1校が連携した学力向上の取組を推進している。

## 2 具体的な取組

### (1) 校内研修の充実

本校では、昨年度から研究主題を「対話的・協働的な学習活動を通し、学びを深める子どもの育成」として、言語活動を意識した国語科の授業づくりを中心として校内研修を進めている。「対話的な学びを通し、子どもたちが生き生きと意見を交わし合う授業」そして、「協働的な学びを通し、子どもたちが思考レベルでアクティブになる授業」を目指し、授業研究を中心に研鑽している。特に、ペア学習やグループ学習では、学習の目的をはっきりさせ互いに学び合い、深め合う場面になるよう工夫している。



### (2) ICTの活用

授業にICTを活用することで、興味関心や学習意欲、学習内容の定着を図っている。日常的に実物投影機やタブレットが必要感のある授業場面で使用され、分かる授業への効果が表れてきている。また、児童会等の活動でも使用することで、児童にとって主体的な活動が展開され、創意工夫の場面構築にも役立っている。



更には、クラウド教材も導入し、PCによる家庭学習を推奨するなど家庭学習の工夫や質的向上にも取り組んでいる。

### (3) 学習規律の徹底

学年の発達段階に応じながら、6年間を見通しながら全校で統一した学習のルールを指導している。各教室には、学習規律にかかわる統一された掲示物が貼られ、日常的に、児童への意識付けと定着を目指している。

また、定期的に児童及び教員に定着の様子のアンケート調査を行い、結果を踏まえた指導内容を検討している。アンケート調査を行うことで、学習規律に対する指導の成果が可視化され、より具体的な指導が全職員による共通理解によって進められるようになった。



#### (4)放課後学習の充実

本校では、放課後を活用した補習を「にじいろ教室」と名付けて取り組んでいる。今年度で4年目となり、方法や内容も定着してきている。授業とは違い、ゲーム形式で楽しく取組める方法もとっている。にじいろ教室の学習日は、低・中・高のブロックごとに設定し、常時5～6名の教員が指導することで、個々の児童の困り感に対応した個別指導を中心に進めている。



#### (5)家庭学習の充実

低学年では、学校からのプリントを中心に、宿題形式で行っている。中学年からは、学校からのプリントに加え、児童が学習内容を考える「自学ノート」に取り組んでいる。自学ノートは、学年の発達段階に応じて、学習課題の選択やノートのまとめ方について指導している。取組の内容には差があるものの家庭での学習習慣の定着が進んでいる。家庭学習に対する児童の回答結果を見ても、「家で予習や復習をよくする」と答えが多くなっている。



#### (6)各種検定の実施

学習意欲の動機付けの方策として、漢字検定や算数・数学検定に取り組んでいる。児童・保護者に積極的に呼びかけを行い土曜日に実施している。受検した児童は、検定に合格することで、これまでの学習の成果を実感でき自信にもつながっている。



#### (7)職員研修の充実

本校では、新採用教員をはじめ、経験年数の少ない職員が多い傾向にある。そこで、校内研修はもとより、教員の経験年数に応じた研修等を積極的に活用している。まず、「メンター研修」として10年程度の教職経験のある教員が、採用5年目までの若手教員を対象に、授業づくりや学級経営等の相談に助言等を行っている。若手教員が積極的に助言を求める姿が多くみられるようになり、チーム学校としての協働体制の構築にも役立っている。



また、指定を受けている授業改善等支援事業を活用し、管内の小学校でミドルリーダーとして仕事をしている教員が講師となり、定期的に授業参観や指導・助言を受ける機会を設けている。

こうした取組により、これから求められる授業像や教育課題への対応等について、職員が真摯に学ぶ姿勢が身についてきた。



### 3 おわりに

学力向上に向けた教育環境づくりに全校体制で取り組むことで、児童が主体的に授業に向かう姿が多く見られるようになった。全国学力学習状況調査の結果にも、その成果が表れてきている。

今後も、外国語の教科化、道徳教育の充実、ICTの活用、そして、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等への対応等、学校に求められる課題に対し「チーム学校」としての考えのもと、職員一丸となって取り組んでいきたい。